

令和3年度

特定非営利活動法人日本レスキュー協会事業報告

(期間：令和3年9月1日から令和4年8月31日)

■日本レスキュー協会全体の動き P：2

- ・組織
- ・組織の動き

■事業の成果

【災害救助犬事業】 P：3～5

- ・災害対応
- ・災害救助犬の標準化に向けた事業
- ・各種プログラム
- ・育成
- ・活動資金
- ・その他

【セラピードッグ事業】 P：6～8

- ・セラピードッグハウス改修工事
- ・被災地慰問
- ・福岡県ワンヘルスの取り組み
- ・セラピードッグ派遣事業とその他プログラム
- ・セラピードッグリタイア犬
- ・活動資金
- ・その他

【動物福祉事業】 P：9～12

- ・犬の保護、引き取りと管理に関する事業
- ・保護した犬猫及び行政機関収容犬猫の譲渡に関する事業
- ・犬や猫の愛護・保護活動を目的とした他団体との交流・連携に関する事業
- ・災害への対応（令和2年7月豪雨災害・熱海市伊豆山地区土石流災害・令和3年8月豪雨災害）
- ・保護犬を災害救助犬、セラピードッグへの育成に関する事業
- ・犬のしつけ方教室の開催
- ・愛犬とともに学べる防災知識の発信
- ・動物福祉事業組織体制

【佐賀県支部】 P：13～14

- ・活動資金調達について
- ・災害救助犬事業
- ・セラピードッグ事業
- ・動物福祉事業関連
- ・その他

■日本レスキュー協会全体の動き

・組織

理事長 : 吉永 和正
副理事長 : 伊藤 裕成
理事 : 河合 伸朗
理事 : 北畑 英樹
理事 : 岡 武
理事 : 多田 修
理事 : 安随 尚之
理事 : 高木 美佑希
理事 : 赤木 亜規子
理事 : 伊藤 美貴
監事 : 鶴飼 卓

職員数 : 11 名

(事務局) 岡 武 (事務局長)

(事業部)

高木 美佑希 (災害救助犬事業責任者)
高橋 玲衣 (災害救助犬事業スタッフ)
高須 正彦 (災害救助犬事業スタッフ)
赤木 亜規子 (セラピードッグ事業責任者)
南園 彩子 (セラピードッグ事業スタッフ)
辻本 郁美 (セラピードッグ事業スタッフ兼動物福祉事業責任者補佐)

(管理部)

伊藤 美貴 (経理総務責任者)

(佐賀県支部)

原田 亮 (佐賀県支部全般スタッフ)
清水 春花 (佐賀県支部全般スタッフ)

(契約職員)

松林 良子 (災害救助犬事業スタッフ)

・組織の動き

退職 : 1 名 (事業部) 守谷 賀予

■事業の成果

【災害救助犬事業】

令和3年度も継続して災害救助犬の育成・派遣を実施しました。

・災害対応

新潟県糸魚川市雪崩（出動前に発見の連絡あり）

2月25日18時に新潟県糸魚川市で発生した雪崩に関して、2月26日10時30分、愛知県の救助犬団体HDSK-9より出動協力要請があり、態勢を整えました。このように、他の救助犬団体から協力要請があることは過去にはほとんどなかったため、横の繋がりや構築が有事の際の連携に繋がっていると実感することが出来ました。なお、出動準備中に発見の知らせが入り、出動はしていません。

神戸市灘区天狗岩行方不明者捜索要請（捜索前に発見の連絡あり）

5月4日早朝5時30分、神戸市消防局担当者より天狗岩付近での行方不明者案件に関する情報提供がありました。隊員4名、救助犬1頭（太陽）が態勢を整え、また、愛知の救助犬団体（HDSK-9）に協力を要請（隊員2名/救助犬1頭）。7時30分頃、正式に局より要請が入り、東灘消防署に向かいました。現地では、特別高度救助隊第二係と連携し、会議にて情報が共有されたのち、活動方針が決定されました。現場に移動しようとした時、行方不明者が自力で帰宅されたという一報が入り、解散となりました。

実際に捜索活動はありませんでしたが、要請から出動、情報の共有まで大変スムーズに進められ、平時からの関係性が生かされていると実感することができました。

・災害救助犬の標準化に向けた事業

1月14日、西宮市消防局と山岳救助を想定した連携訓練を高座山で行いました。訓練では、この山を熟知した救助隊により捜索範囲を絞り、「太陽」と「金蔵（救犬ジャパン所属）」が行方不明者を迅速に発見。救助隊によるサポートがあつてこそ成し得た結果でした。捜索の様子を目の当たりにした救助隊は、「有事の際はすぐに要請したい」「しっかり見つけられて凄い」と話し、今回の訓練が充実したものになったことを実感しました。西宮市消防局では、今回の訓練を動画製作し、隊員の教材として使用されるとのことで、2月と3月にも訓練を予定していましたが、コロナにより残念ながら中止となりました。

6月17日、佐賀広域消防局を訪問致しました。5月24日のMORE WAN 式典では、副局長にご参列頂きましたが、これまで関係性はほとんどなく、今回初めての訪問となりました。顔合わせでは、副局長および警防課副課長、さらにはその場で消防署にも繋いで頂き、課長および救助係長とご挨拶することができました。救助犬の活動について説明し、特に熱海土石流災害での活動事例は関心を寄せて頂きました。これまで佐賀消防では、救助犬との連携がなかったものの、導入に関して前向きな様子であり、今後、訓練を通してより一層顔の知れた関係づくりを構築できると感じています。

7月13日、岡山市消防局の研修会に参加致しました。岡山市とは平成22年に協定を締結していましたが、これまで関係性の構築は図れていませんでした。研修会では、緊急時の連絡体制を確認し、救助犬の活動や連携、過去の災害事例についての講演、また実際に救助犬の捜索の様子を見て頂きました。今回、ご連絡頂いた担当の方が救助犬の導入にとっても積極的であり、今後の訓練にも参加してほしいと具体的な要望もあり、瓦礫施設も是非使ってくださいと育成に関しても理解がありました。このようなきっかけを大切にしながら、また、地元で活動している救助犬団体を巻き込みながら関係性を構築していきたいと思えます。

その他、協定を締結している地域の防災訓練に参加しました。福井県では、熱海災害における救助犬の活動を報道で知り、地域でも運用したいと思ったそうです。消防や警察と有意義な連携を図ることができました。

他機関との連携および訓練

岐阜県高山市の山岳や兵庫県広域防災センター、長野県八ヶ岳国際救助犬育成センター等を使用して、他の救助犬団体と合同訓練を行いました。訓練では、災害対応や今後の連携なども交流し、横の繋がりの強化を図りました。(訓練 15 回)

・育成

災害救助犬候補犬の導入

1 頭 (2022/6/23 生、ジャーマンシェパードドッグ、雌)

救助犬試験

試験はレベル 1 (初歩) ~レベル 5 (出動レベル)、5 段階評価 (V (優)、SG (特良)、G (良)、B (可)、M (不可)) とし、犬のレベルに合わせて受験しています。

内部：(9 月、1 月)

- ・陸 (3 歳) : レベル 5 合格 (SG 評価)
- ・カミーノ (3 歳) : レベル 2 合格 (G 評価)
- ・あゆむ (2 歳) : レベル 4 合格 (SG 評価)
- ・ゆいと (2 歳) : レベル 3 合格 (SG 評価)
- ・たの (2 歳) : レベル 3 合格 (G 評価)

※今後、陸は少しずつ災害現場に帯同させます。

なお、山岳要請に備えて、山岳搜索を強化しています。太陽につきましては、実働を想定した訓練に励み、検証しながら消防とのより良い連携に努めています。

外部：(1 月)

2 名 2 頭がレベル 1, レベル 2, レベル 4 を受験し(13,000 円)、1 頭がレベル 1, 2 を合格 1 頭がレベル 4 を仮合格しました。現在、この 2 頭は協会で救助犬のトレーニングを行っています。

獣医学研修会実施 (10 月、11 月)

ノア動物病院院長山本先生を招聘し、スタッフが獣医学の研修を受講しました。講義では、「とにかく感度を高めること」と指導頂き、その際に大切なルーティンや緊急時の適切な処置方法、準備物等、すぐに実践できることを多く学びました。

・各種プログラム

しつけ教室

延べ 34 組が受講、131,000 円の収入を得ました。訓練期間が二年目、一年目と長期継続の方も増えています。

救助犬サポーター養成講座

月に一度の開催を目途に11回実施し、16名が受講、48,000円の収入を得ました。Instagramを使用し、オンラインで開催しています。

救助犬育成体験プログラム / 救助犬ハンドラー養成コース

12月、2月、4月に開催し、計9名の専門学生や高校生、大学生が参加しました。参加者は、大阪や兵庫だけでなく、京都や神奈川、茨城からも参加があり、救助犬を学ぶ機会の少なさを感じました。また、愛犬の救助犬トレーニングは3名が継続して実施しています。

・活動資金

企業支援 / 助成金

- ・真如苑 (¥500,000) 助成金
- ・株式会社ドリーム ONE (¥110,000) 店舗グランドオープン祝いのお花の代わり
- ・特定非営利活動法人 コンコード音楽企画様 (¥113,100) チャリティーコンサート企画
- ・株式会社オカムラ (¥50,000) 寄付
- ・株式会社アクセンチュア (¥33,000) 寄付
- ・プルデンシャル生命保険株式会社大阪第二支社 (¥80,000) 寄付
- ・ウェルネス苑都城 (¥100,000) 寄付

Yahoo! ネット募金 (9月～8月)

994,317円集まりました。現在、毎月の継続寄付人数は37名です。また昨年と比較すると約55%の寄付額です。昨年は、熱海での活動の影響がかなり大きかったと考えられます。

Syncable (クラウドファンディング) 9月～8月

第二弾「災害救助犬訓練犬「たの」のバースデーネーション」(¥322,858)

第三弾「災害救助犬訓練犬「カミーノ」のバースデーネーション」(¥61,201)

第四弾「災害救助犬「太陽」のバースデーネーション」(¥365,018)

「さらに災害現場で活躍するために救助犬たちの訓練環境を整えたい! (継続中)」(¥480,555)

・その他

オンライン感謝祭

3月20日、Instagramでライブ配信を行いました。配信では、犬舎紹介や訓練風景、クイズ、そして、日ごろの感謝を一人一人伝える時間を作りました。配信時間1時間で視聴者数は275名、ピーク時の同時視聴者数は42名となり、約30名の方が常に視聴して下さっていました。協会は、コロナ感染拡大によって、約2年間見学会が実施できていません。しかしその中でも、活動を伝え、応援したいと思ってもらえる支援者さんが増えるように、取り組んでいきたいと思えます。7月からはtiktokアプリを使用して、朝の時間帯にライブ配信を毎日行い、フォロワーの獲得に努めています。

犬の預かり

12月～2月、ジャーマンシェパード(メス)の預かりを有償で行いました。とても強い攻撃性がありましたが、預かり期間を通して、レスキュー全スタッフが通常のお世話ができるようになり、今後は、ご自宅と協会のトレーニングを並行して行う予定です。(預かり費用: 214,500円)

6月、事情により再度1か月預かりを行いました。(預かり費用: 71,500円)

【セラピードッグ事業】

令和3年度も継続してセラピードッグの育成・派遣を実施しました。

・セラピードッグハウス改修工事

今年2月中旬から始まったセラピードッグハウスの改修工事が終了し、バリアフリートイレが設置されました。また、入口がスロープ仕様になった事で段差がなくなり、車椅子の方でもご不便なくご利用頂けるようになりました。

【費用】 約¥14,500,000

【資金】 ¥17,423,729

- ・基金…寄付額合計 ¥6,237,553 (寄付人数 637名)
- ・READYFOR…寄付額合計 ¥7,186,176 (寄付人数 347名)
- ・持続化給付金…¥2,000,000
- ・尼崎信用金庫借入れ…¥2,000,000

【返済総額】 ¥2,046,564→¥2,016,370 (¥56,000/月)

クラウドファンディングでの資金調達に成功したため、6月時点で¥1,000,000をまとめて返済当初の3年計画から1年半で全額返済のプランに変更 (2023年10月まで)

・被災地慰問

令和3年8月豪雨被災地慰問 (令和3年10月11日/佐賀県大町・武雄)

避難所や支援拠点、地域のサロン活動のほか幼稚園などを訪問。令和元年に続く2回目の被災であり被害の規模も大きかったため、被災者、支援者ともに精神的なダメージが大きく、早い段階からセラピードッグに対するご要望がありました。

熊本地震被災地慰問 (令和4年5月16日)

熊本県南阿蘇村役場・復興推進課 (現・政策企画課) の方からの依頼を受け、益城町の「保育園ころ」を訪問しました。セラピードッグとのふれあいのほか、子どもたちによる「絵本の読み聞かせ」を実施。当初ドッグセラピーについてご存知なかった園長先生でしたが、セラピードッグとふれあう子どもたちの様子を見て、再訪のご依頼を頂きました。

東日本大震災被災地慰問 (令和4年5月21日・22日) ※大東建託グループ「みらい基金」にて実施

2019年10月以来、約2年半ぶりに岩手県釜石市を訪問しました。

21日は復興住宅の住民さんを対象に、屋外でドッグセラピーを実施。釜石市でも新型コロナウイルス感染拡大の影響ですべてのサロン活動が中止となり、外出の機会が減ることで起こる運動不足、心身の衰え、認知症の悪化などの新たな問題が起これ、コミュニティ構築が難しくなっていると事でした。人と関わる機会が減ったことで起こる新たな問題をお聞きし、被災地でのサロン活動の重要性を改めて感じました。22日は釜石市民ホール TETTO にて開催された、ペット防災に関するイベントに参加しました。

・福岡県ワンヘルスの取り組み

福岡県では「ワンヘルス」の理念のもと、「環境と動物と人とのより良い関係づくり」の一環として、アニマルセラピーの取り組みが始まっています。日本レスキュー協会も、福岡県獣医師会総括のもと、県の障がい福祉課からの依頼を受け、療育・教育・健康づくりの分野で参加しています。

発達障がいやダウン症の子どもたちを対象にしたドッグセラピーや、将来医療現場に立つ学生を対象に講義を実施するなど、アニマルセラピーの普及に向けて深く関わっています。この取り組みでは、理学療法

士、作業療法士、言語聴覚士、心理士、保育士など各分野の専門家の方々とチームとなってプログラムを組み、その効果を検証していくという日本レスキュー協会にとって大変意義のある取り組みになりました。野外（森）でのドッグセラピー実施など、新たなチャレンジにより見えてきた課題も多く、今後も継続して専門家の方々と共に取り組んでいきます。

・6月28日・7月26日／対象：発達障がいの子どもたち（しいのみ学園）

・8月27日／対象：ダウン症の子どもたち

・9月3日／対象：看護を学ぶ学生（博多高等学校）

・9月25日／対象：発達障がいの子どもたち（ワンヘルスの森）

・10月23日／対象：発達障がいの子どもたち（ワンヘルスの森）

ワンヘルスフェスティバル（令和3年11月14日・令和4年10月2日／福岡県筑後市）

「心と体の健康づくり」のきっかけとして、子どもたちとお散歩体験を実施。

・セラピードッグ派遣事業とその他プログラム

オンラインドッグセラピー

病院訪問再開の目途が立たず、オンラインでの交流を継続しています。

① 大阪母子医療センター

【実施回数】22回

【参加人数】延べ120名

※緊急対応への要望…手術の際に家族と離れてから麻酔が効くまでの間のディストラクションの取り組みとして、オンラインドッグセラピーのご要望を頂いています。

② 国立国際医療研究センター病院

【実施回数】2回

【参加人数】9名

セラピー訪問

コロナの影響により、既存施設の訪問再開まで至っていません。

【訪問件数】24件

【収入】¥610,610

セラピードッグハウス

【参加人数】大人63名、小中学生14名、小学生未満1名

【収入】¥66,000

セラピードッグサポーター養成講座 ※オンラインでの実施

【実施回数】12回

【参加人数】35名

【収入】¥105,000

・セラピードッグリタイア犬

「皆輪」と「にこり」の2頭が、それぞれ11歳で新しいご家族の元に正式譲渡されました。

皆輪…5月7日

にこり…7月14日

・活動資金

助成金

【積水ハウスマッチングプログラム】80万円

- ・助成期間／令和4年1月末まで
- ・大阪母子医療センターと国際医療研究センター病院で長期入院中の子どもたちへの支援活動
- ・セラピードッグの医療費（みらい・ハッピー・けんた以外の5頭分）

【大東建託グループ「みらい基金」】100万円

- ・助成期間／令和3年12月末まで
- ・大阪母子医療センターで長期入院中の子どもたちへの支援活動
- ・東日本大震災被災地慰問
- ・セラピードッグ3頭（みらい・ハッピー・けんた）の医療費含む育成費

Yahoo! ネット募金

今年度寄付額：322,260円

累計寄付額：2,042,163円

・その他

令和3年度で8年目となる非常勤講師を慈恵学園の大阪ECO動物海洋専門学校で務めさせていただき、セラピードッグ事業に従事する後進の育成にも力を注いでいます。

【動物福祉事業】

令和3年度も主に動物福祉の向上に関する活動を実施しています。

また、災害時のペット世帯への支援活動およびペット防災に関する事業を実施しています。

・犬の保護、引き取り及び管理に関する事業

昨年度から犬4頭の飼養管理を継続、うち1頭は、令和2年11月より一時預かりボランティアによる飼養管理を継続しています。

今年度は犬3頭の保護、引き取りを行いました。

令和4年8月31日現在、犬2頭を管理し里親募集を行っています。

また、令和3年11月に神戸市動物管理センターへの団体登録を行いました。

・保護した犬猫及び行政機関収容犬猫の譲渡に関する事業

犬5頭を一般家庭に譲渡しました。

・犬や猫の愛護・保護活動を目的とした他団体との交流・連携に関する事業

行政収容所（動物愛護管理センター、保健所、警察署など）の収容動物の一般家庭への譲渡率を向上させるため、他の団体や動物愛護活動家と協働し犬22頭と猫15頭に医療費等を支援、犬17頭と猫7頭を一般譲渡する事ができました。今年度は2,015,003円を使用して支援しました。

医療費支援の財源は平成28年12月から参画したYahoo!ネット募金「行政に収容された犬や猫に必要な医療を受けさせ里親を見つけない」から充当しました。

・災害への対応

【令和3年熱海市伊豆山地区土石流災害】

昨年度8月から被災ペット世帯への支援活動を継続しています。

移り住んだ先で使用するペット用品等一式を支援したほか、災害を機に地元有志が立ち上げた任意団体と連携し、ペット用品を当該団体経由で支援しました。伊豆山地区には、県外の団体等との関わりに積極的ではない人もいと聞き、地元団体とのつながりによって、そのような方への支援も可能となりました。

熱海市周辺に別荘を所有している方へ向けて、ペット世帯のために一時的な仮住まいとして提供していただけないかという呼びかけを行い、合計3件のお申し出がありました。呼びかけには、新聞への掲載と熱海市のホームページへの掲載等の協力を得ることができました。実際の入居には至りませんでした。土地が限られた熱海市で、多様な職種の方と連携する中で、様々なアイデアが支援に結び付く可能性があることを実感しました。

初めての取り組みとして、避難先から次の住まいに移る際にペットと入居する住宅の費用に関する助成制度を実施しました。公営住宅は原則ペット入居不可とされているため、ペット世帯が次の住まいに移る際は、行政の民間賃貸借上げ制度「みなし仮設」を利用するか、自費で賃貸契約を結ぶ、という選択になります。そもそも熱海市内はペット入居可能な住宅が少なく、住まい探しが難航することが多く、行政の支援制度を利用せず、自費でペット可住宅に入居した方もおられました。

このような、ペットを飼っているために行政の制度に当てはまらなかった世帯や、ペット飼育料を別途負担されている世帯に対し、住宅にかかる費用の一部を助成しました。1件あたり10万円を上限とし、3件に合計300,000円を支援しました。また、被災ペット世帯の入居のために「ペット不可」の物件を「ペット可」とした大家さんを対象に、退去時の原状回復にかかる費用の一部を助成しました。1件あたり10万円を上限とし、3件に合計300,000円を支援しました。新たな支援の形として、今後の支援活動にも活

かしていきたいと考えています。

これらの活動実施には、佐賀県で関係のある中間支援団体「佐賀未来創造基金」からのつながりで静岡の中間支援団体を経由し、熱海で活動する住まい関連のNPOを通じて不動産会社と連携することができ、多くの協力を得ることができました。また、民間団体が給付する助成金制度に関しては、佐賀県武雄市の「(一社)おもやい」が、令和2年の豪雨の際に災害救助法が適用されなかった地域の住民に対して実施した給付金制度を参考に直接アドバイス等をお願いしました。

【令和3年8月豪雨災害】

昨年度に引き続き、8月の豪雨により大きな被害を受けた大町町・武雄市で、引き続き被災されたペットと飼い主さんへの支援を継続して実施しました。

物資支援、ケアや散歩のサポート支援、一時的に預けられているペットの医療費の支援など、生活再建に向けて少しでも負担を少なくできるよう、支援を行いました。支援した医療費の合計は55,682円です。

また、この災害以降、行政や社協の方から、ペットの避難や防災についての情報提供を依頼されることが増えました。行政機関などにおいても、災害時のペットとの避難に関することへの関心が高まっていると実感しています。今災害の活動を通じて多方面にネットワークを構築することができ、佐賀市や嬉野市など、大町町以外の地域においても協会の活動が認知されてきています。

新拠点オープンへの地域の期待も感じ取れ、今後も地域に密着した活動を展開していきたいと考えています。

【令和4年8月大雨による災害】

東北・北陸地方の広い範囲の各地で河川の氾濫、浸水、土砂災害などの大きな被害が発生しました。8月9日に新潟県村上市に向けて出動。村上市災害ボランティアセンター経由で土砂崩れの被害のあった小岩内地区で現地調査を行いました。地域内にペットを飼っている世帯があり、物資の提供やサポートが可能な旨をお伝えしました。この世帯への支援の実施はしていませんが、村上市内の避難所へ訪問し、ペットシーツや消臭袋などのペット用物資を提供しました。村上市では、ケージ使用の上でペットと飼い主さんが一緒に避難所の中(屋内)に入れる環境が整っており、一時はペットと一緒に避難されている世帯もあったということです。

また、石川県小松市の災害ボランティアセンターと市役所へ訪問し、被災されたペットの世帯の方に対する支援活動の準備がある旨をお伝えしました。

・ペット防災の仕組みづくりやネットワークづくりに関する活動

災害時のペット対策を考える動きや、ペットの防災を広める動きが全国的に進められています。

令和2年度より、(一社)全日本動物専門教育協会が発行する民間資格「ペット災害危機管理士」の2級講座における基調講演の講師依頼を継続して受けています。

また、佐賀県生活衛生課からの依頼で、佐賀県動物愛護推進員研修会においてペットの災害対策に関する講演の依頼を受けました。佐賀県内の動物愛護推進員とのネットワークもでき、今後の災害支援活動にも生かせる良いつながりができたと感じました。

5月には、同じく佐賀県生活衛生課からの依頼で、佐賀県危機管理防災課が主催する佐賀縣市町防災担当者研修会で、佐賀県内の20ある市町の防災担当者向けにペットとの避難に関する取り組みについて講演を行いました。佐賀県支部 More Wan でのペット避難所をモデルとして紹介し、佐賀県内の各市町に広げていけるよう、取り組みを進めていきたいと考えております。

・飼い主向けの愛犬とともに学べる防災知識の向上に関する発信

各種ペット関連のイベントにおいて、ペットの飼い主に向けて「災害に対する備え」の重要性を知ってもらうための啓発活動を行いました。これまでの災害で、被災地で行なってきた被災ペットへの支援活動を元に情報発信をしています。

災害時には人命が最優先とされるため、家族であるペットの命を守るのは飼い主であるということ、そのためには日ごろからの備えがとても重要であることを飼い主に知ってもらい、「災害現場や避難所での事例」「備えておくべき非常用持出品」「日ごろから取り組むべきしつけ」などについて発信を行っています。

5月22日には、セラピードッグ事業の慰問活動に合わせ、被災地でのペット防災の呼びかけを岩手県釜石市で行いました。地元団体の主催で行われた、ペット防災について考えるイベントに参加し、セラピードッグとのふれあいや写真撮影、ゲーム体験とともに、ペットとの避難や普段からの備えについて、被災地で実際に起きた事例なども交えながらお話をしました。参加者は熱心に耳を傾けており、ペットの事も含め、とりわけ「避難する」ことに対して関心が高い印象を受けました。イベントでは、協会オリジナルのペット用非常持出袋や避難時に役立つしつけの資料を配布し、「備えの実装」を促すような呼びかけも行いました。大きな災害を経験した地域でこのような啓発の取り組みができたことは、とても有意義であったと考えています。

今後も地域を問わず、ペットとの避難に関する啓発活動を広げ、継続していきたいと考えております。

・犬のしつけ方教室の開催

子犬の時から効果的なしつけを行われなかった成犬は「吠える」「咬む」などの問題行動を起こす場合があります。この問題行動が要因となり飼い主がペットに対する愛情が薄れ、結果的に保健所に持ち込まれるケースは少なくありません。

毎月1回、スーパービバホーム大阪ドームシティ店で「愛犬しつけ方教室」を開催し、飼い主に対し効果的なしつけ方を教えています。今年度は、11回開催、46件、104,500円を売り上げています。

・保護犬から災害救助犬、セラピードッグへの育成に関する事業

今年度は該当する保護犬がなく、実施していません。

・活動資金

企業支援

大和ハウスグループ「2022年度エンドレス募金」寄付内定

寄付金額：年間60万円＋α（従業員の投票の結果に応じた額）

Yahoo!ネット募金

新規プロジェクトを6月17日より開始しました。

【佐賀県支部大町拠点における取り組み】

・避難所体験オンラインイベント

休眠預金事業の一環として2月5日、6日に実施を計画していたペット避難所体験イベントは、本来ペット同伴で参加できるイベントとして企画しておりましたが、まん延防止等重点措置の適用により、内容を縮小し、オンライン開催をいたしました。

午前にはFacebookとInstagramを使用し、施設内の詳細の紹介、避難所体験のデモンストレーション、災害救助犬デモンストレーションのライブ配信を行いました。午後は熊本県の一般社団法人HUG代表理事富士岡氏によるペットの災害時の対策に関する基調講演をオンラインで開催しました。

実地開催はできませんでしたが、オンラインでの開催により、全国の様々な地域の方に見ていただくことができ、のべ120名をこえる方にご視聴いただきました。

本イベントは、環境省、佐賀県、大町町、佐賀県獣医師会による後援を受け開催しました。オンラインイベント開催の拡散においては、大町町役場経由で大町町内にチラシを全戸配布、佐賀県生活衛生課のホームページに掲載していただくことができました。チラシを見た方から複数件問い合わせがあるなど、大町町内や近隣市町で関心を持ってくださっている方が増えていると感じました。

また、飼い主向けのパンフレット「備えよう！ペットの災害対策ガイド」を作成しました。イラスト入りで非常にわかりやすく手に取りやすいデザインになっており、災害への備えを実装するきっかけになればと考えています。佐賀県内にとどまらず、各地で配布しています。

・ペット同伴避難所稼働への取り組み

大町拠点を避難所として稼働させるための「避難所運営マニュアル」をはじめとする、「避難所運営の体制づくり」を進めています。今年6～7月の梅雨時期の本格稼働を目指しています。

マニュアルの作成にあたり、行政や社協、専門家などの立ち合いの下、避難所運営訓練を行い、行政などとの連絡体制や、感染症対策を徹底した受付の方法などの検討を行いました。今後、避難所稼働に向けた連携体制づくりや、外部関係者を含めた運営訓練などを実施し、実際の稼働まで準備を進めます。併せて、施設のオープン後には、住民向けの避難所説明会や講習会などを開催し、飼い主自身が災害に備える自助、また、飼い主や住民同士で助け合う共助を促すような取り組みも計画しています。

ペット同伴避難所は全国的にも例が少ないため、この避難所の体制が「ペット同伴避難所」の一つのモデルケースとなり、各地で同様の取り組みが行われることを目指しています。

今後の避難所の取り組みにつきましては、佐賀県支部からの報告といたします。

【佐賀県支部】

令和3年より拠点の建築を開始。令和4年2月に佐賀県支部大町拠点「MORE WAN」の建物が完成。佐賀県内にとどまらず九州圏域、西日本での災害に対応できる災害救助犬を育成する拠点と位置づけさらなる事業拡大に努めました。

○活動資金調達について

活動資金源として、ふるさと納税による資金調達を継続

ふるさと納税寄付額 57,437,686 (令和3年9月～令和4年8月末)

2021年10月4日～2021年12月31日(90日間)ふるさと納税サイト「ふるさとチョイス」にて設定金額1000万円のGCF(ガバメントクラウドファンディング)開始。タイトルは「災害救助犬とセラピードッグを育成・派遣する体制を構築したい! 人と犬が共生する拠点「Wan for all. All for Wan.」を作ります」6,781,686円集まり、目標金額の67.8%にて終了。

2022年5月2日～2022年7月30日(90日間)ふるさと納税サイト「ふるさとチョイス」にて設定金額300万円のGCF(ガバメントクラウドファンディング)開始。タイトルは「【被災地に迅速な支援を!】災害救助犬を育成したい!」490,000円集まり、目標金額の16.3%にて終了。

・地域おこし協力隊

5月1日 本部職員(清水)異動→佐賀県支部

6月1日 清水、大町地域おこし協力隊として活動開始

地域おこし協力隊予算:4,144,800円

・休眠預金事業採択

事業名(主):県西部ロジスティクス強化と大町町支援拠点整備による被災者支援

事業名(副):令和3年8月豪雨で最大被害の県西部の直接支援継続と今後の備え

予算:75,263,840円

・日本財団助成金(協議中)

SPFと連携で、MORE WAN内に災害支援拠点を整備する。

その一環で日本レスキュー協会災害救助犬事業として必要な、訓練設備である瓦礫、倒壊家屋、高所訓練塔等を日本財団助成金で設置できるよう調整中。

訓練設備予算:20,000,000円

・佐賀県支部拠点建設基金

2021年9月～

寄付額:10,308,111円

○災害救助犬事業

5月末より災害救助犬候補「結道」が1頭入舎し訓練を開始して、災害時における派遣体制を整えていく。

○セラピードッグ事業

佐賀市内でペットのしつけ教室を開いているインゼアナチュラル古賀氏にMORE WANでのしつけ教室を依頼予定であり、同時にセラピードッグの育成講座などの開催も相談・検討中である。将来的には一般の愛犬をセラピードッグとして育成し、佐賀県内および福岡県のワンヘルス事業に関連する福祉施設や病院などからの多くの要望にお応えする。

○動物福祉事業関連(令和3年8月豪雨災害対応)

令和3年8月豪雨により佐賀県の西部地区に甚大な被害が出た。発災後より日本レスキュー協会が事務所機能を担っていた佐賀災害支援プラットフォーム（以降 SPF）を始めとした県内団体と連携して被災地に入り、情報収集・共有を行う。SPF 事務局として県外団体が佐賀の被災地に入るためのガイドラインを作成し、被災者の方の不安を増長させることが無い様に被災地での復旧活動に関しても新型コロナ対策を講じた。日本レスキュー協会としても職員を被災地の一つである大町町役場の CSO 連携会議室に常駐させ、地域を回りペットに関する課題等の情報を集めてペット用フード・グッズの物資支援や、ペットと車中泊されている住民にマイクロバスを貸し出すなどの個別対応にあたった。

○大町拠点「MORE WAN」に関して

日本レスキュー協会佐賀県支部大町拠点「MORE WAN」の建物が新型コロナウイルスの影響により生じたウッドショックや半導体不足のために当初の予定よりも3カ月ほど遅れて令和4年2月に建物が完成した。ドッグラン、導線、駐車場、門扉、訓練施設等の外構工事や建物内の備品の手配なども現在進めておりグランドオープンに向けて拠点の整備を行っている。救助犬候補の「結道」は実災害では対応できないため、当面の間は災害発生時には本部から災害救助犬及びスタッフを迅速に現場に投入し、捜索活動などを行う。

「MORE WAN」は4月以降、セミナールームや訓練エリアをレンタルスペースとして貸し出しており、SPF を始めとした県内外の団体が様々なセミナーや講演会、専門的な技術講習会などを行っている。

※別紙参照

- ・「MORE WAN」建物完成、鍵受け渡し

日程：令和4年2月1日

- ・「MORE WAN」ライブ配信

日程：令和4年2月5日

新しく完成した日本レスキュー協会佐賀県支部大町町拠点から、ライブ配信を実施。

- ・「MORE WAN」同行避難訓練1回目 休眠預金事業

日程：令和4年2月6日

まん延防止等重点措置が発令されていた為、関係者のみでペットとの同行避難の訓練を行った。手順の確認、関係者の意見を取り入れながら避難所マニュアルの作成に取り組む。後述の訓練にてシュミレーションを行う。また午後13:00～14:30 基調講演配信～災害時のペット同行避難対策～ペット防災三本の柱～を実施。

- ・「MORE WAN」開所記念式典

日程：令和4年4月23日

参加者：佐賀県知事、大町町長、日本獣医師会会長、佐賀県国会議員（4名）、警察・消防関係者、佐賀県・大町町行政関係者、企業、CSO、他、約100名の出席

- ・「MORE WAN」同行避難訓練2回目 休眠預金事業

日程：令和4年6月26日

佐賀県支部 More Wan でペット同伴避難所として運用するための避難所運営訓練を行う。午前中は連携機関とともに、避難所運営のためのマニュアルの確認。また、所在地である大町町の行政機関との連絡調整の手順も確認。午後からは、地域の住民さんにペットと一緒にご参加いただき、大雨の災害により More Wan に避難してきたという想定で、避難所体験会を実施。案内や誘導の手順を一つずつ確認しながら、シミュレーションを行う。その後災害時に必要となるペットのしつけ(インゼアナチュラル古賀氏)、ペット防災(一般社団法人 HUG 代表理事藤岡氏)、災害時の健康的な過ごし方(佐賀大学鈴木教授)についての講演をしていただいた。